

熊本県立荒尾支援学校進路便り7月②号(通巻NO.15)

わーく&らifu

平成29年7月20日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

★連載「キャリア教育基礎講座①」～夏休みにやっておきたいこと～

連載「キャリア教育基礎講座①」

～夏休みにやっておきたいこと。Keywordは「メリハリ」「ほめる」～

明日から夏休み。家庭や地域で過ごす40日余りがスタートします。保護者の皆様の中には、お子様やご家族の過ごし方に悩まれる方もおられるかと思えます。しかし、視点を変えてみると実はお子様に新たな経験をさせたり、キャリア発達を促す大切な力を育てる有意義な時間になるかも知れません。

夏休み直前の「わーく&らifu」では、そのアイデアをご提案いたします。

◆key word1 「メリハリ」

夏休みになると、「毎日をどのように過ごさせようか」「どこへ連れて行こうか」いろいろと考えるだけで疲れてしまわれるのではないのでしょうか。

そこで考え方を変えてみましょう。「何か特別なこと」をするのではなく、家族との時間が増えることを活かして、本人以外の家族が毎日やっていることを「役割」として与え、「メリハリ」のある生活をさせてみませんか？

難しく考える必要はありません。まずは家族と同じ時間に起床して、一連の家事(ゴミ出しカレンダーに合わせてゴミ出し、新聞を取る、朝ご飯の支度、片付け、洗い物、掃除・洗濯等々)を家族と一緒にやる。つまり、本人以外の家族が様々な受け持っている「家事業」を一緒にやってみてはいかがでしょうか。

そうすると生活リズムが自然と整い、家事をこなす体力と忍耐力(働く体力へつながるもの)もついてくるはずです。

取り組む内容は、お子様の発達に応じて、易しいことから難しいことまでいろいろと工夫する余地がありますね。

朝からご家族の誰かを「笑顔で送り出す」ことも大切なしごとのひとつ。上級生になれば、一人で任せることも経験させられますね。

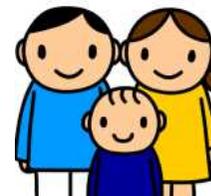


はじめはうまくいなくても、40日間の時間は、何かしらの成長をもたらしてくれるはず。また、芳しい結果として表れなくとも、すべての学習の基礎となる「人のことを見て真似をする(模倣行動)」「人から物事を教わる姿勢」を学ぶことができます。

こうした家事・活動を、毎日決まった順番で決められたやり方で繰り返すことは、知的障がいのあるお子様にとって、最も「わかりやすい」身近な仕事への参加に他なりません。

そして、家族のために何かをする(何か自分が自分にもできるという実感)経験と、大切さがわかってきます。

これらのことがすべて、お子様のキャリア発達を促す大切な力を育てます。ぜひご家庭で、40日間の過ごし方の計画を練ってみてください。中学生以上になれば、目標と行動計画づくりにお子様も参画すると更によいですね。



◆Key word2 「ほめる」

夏休みは、家庭生活を活用して、同じことに繰り返し取り組めるチャンスだとお話ししてきました。次に必要なのが、夏休みの生活の「目的作り」です。

つまり、お子様の生活のモチベーションを上げる工夫です。

それにはきちんとした評価があることが重要です。

ただ単にご褒美を与えるのではなく、お子さんの生活ぶりを、良いところはよいとはっきり評価し(認め・ほめ)、ご家族から見た「良いこと」「嬉しいこと」「助かること」などの評価を、前向きに伝え、お子様のがんばりの結果が、楽しみ(余暇)につながることで理解できるよう結びつけることです。このことが、メリハリのある生活を過ごす「目的」につながります。

日本人は「誉める」のが下手で、ときにまわりくどくなりがちです。しかし知的障がいのある子どもは、わかりやすくほめられないと気づきませんね。よい行動がとれたときには、お子さんにわかる形で誉めてあげてください。

特に、お手伝いなどは、人から指示された行動をとるということです。その基礎には、「自分のやりたいことを我慢する」という力が育つ必要があります。自分以外のことを優先して活動できたことは、大いに誉めるに値することで、このことを誉めて伸ばしておかないと自分の「わがまま」な言動が増えることにつながるかも知れません。

最後に、「家庭での責任ある役割(家事)を果たすこと。」「自分がやった結果が家族のために役立つこと」を実感することは、我々が考えるより大きな意味があると肝に銘じ夏休みを過ごしてみましょう。

お子様に役割(仕事)を教えるジョブコーチは、お子様の事をよく知るご家族ですからこんなに力強いものではありません。親子で楽しみながら取り組みましょう。

